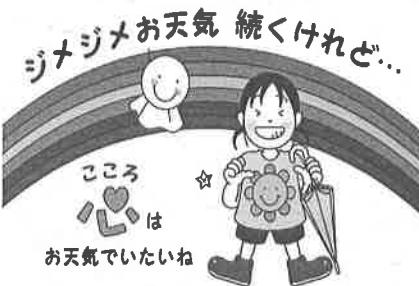


# ほけんだより

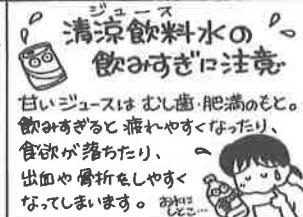
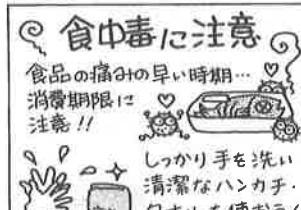
令和6年6月鹿沼東高校保健室



ろそろ終わるかな?というときでした。阿部、疲れ切って完全に思考停止(脳疲労)状態だったと思います。ボーッとしていて失敗がなかったといいのですが。ほけんだよりが好きというお言葉は、本当に励みになります。これからも学んだことは紙面を通してお伝えしていくうと思います。みなさんのお役に立てそうなものがあったら嬉しいです。

私も「これ、好きだな」「いいよね」「素敵だね」という幸せ言葉はどんどん伝えていきたいなと思いました。人の良いところを見られる心の余裕を持ってみたいし、そんな自分が好きだし(大人になると褒められることがあまりないので、自分で自分を褒めて好きになるようにしています)、言われたほうも嬉しいし、お互い幸せな気持ちになりますね。というわけで、先日、いつもお世話になっているヘア stylistさんとネイリストさんに「ジム友さんからいつも素敵にしてもらってるのねって言わされました」と伝えてみました。「嬉しい!これからもお仕事頑張ります」と喜んでくださいました。「阿部さんが素敵だから、さらに素敵になるんですよ」と言われ、「あら、そんな…やっぱり?」と、お互いの褒めたたえあいが止まらず、時間が押しました。謙遜と「ほどほど」を身につけようと反省しました。

## 梅雨の季節の健康と安全について

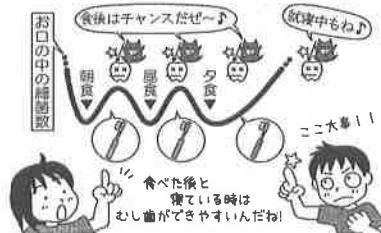


## 6月4~10日は「歯と口の健康週間」です。

今年度の歯科検診は6月13日(木)に実施します。例年、歯科校医の先生方から虫歯の減少が評価される一方、「歯肉炎の増加」と「歯垢・歯石の付着」が指摘されます。歯みがきなどの口腔ケアが生活習慣として身についている人が多いと思いますが、続けているうちに手を抜いていたり、自己流になってしまい、「みがいているけど、みがけていない」という状態になることがあります。

そこで、半年に1回程度、歯科医院で定期検診を受けることをお勧めします。異常や病気だけでなく、歯垢・歯石がないか、口腔ケアの方法も正しくできているかチェックしてもらえます。乳歯から永久歯に一度しか生え替わらない歯は「一生もの」。しっかり食べて、健康に生きていくためにもプロによるケアを活用し、手入れを怠らないようにしましょう。

### 食べたら、みがく



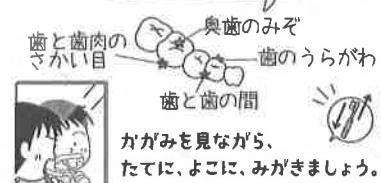
### 歯ブラシ、きれい?

毛先が開いた歯ブラシでは、汚れがきれいに取れないし、歯肉も傷つけてしまいます…。  
イヤーン!



### 1本、1本、ていねいに

1本の歯でも、みがくところはたくさん!



**歯と口の健康週間**  
6月4日~10日

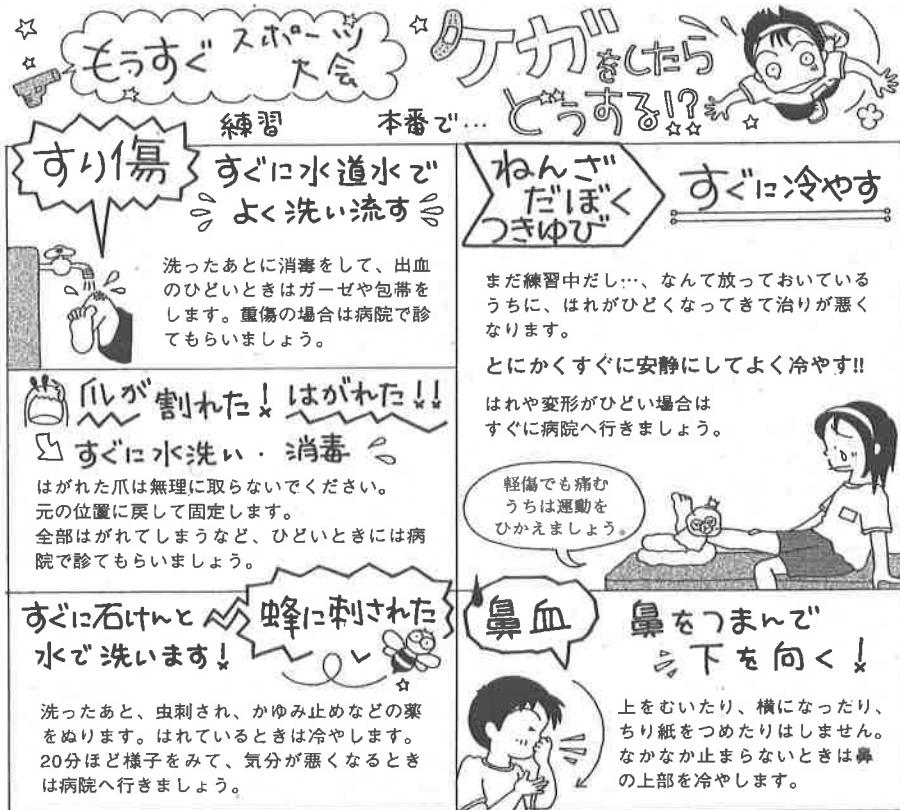
### 半年に1回は歯石とり

毎日ていねいにみがいても、残った汚れは歯石になっていきます。定期的にきれいにしてもらいましょう。



歯石を放置してしまうと、細菌の住みかとなり、口腔内に悪影響を及ぼします。①歯茎の炎症・出血⇒②歯茎が下がる⇒③歯がグラグラする⇒④歯が抜けてしまうことがあります。歯石を蓄積しないためにも定期的に歯科検診に行きましょう。





- ◎睡眠をきちんととる(最低でも6~7時間)。
- ◎食事をしっかり食べる。
- ◎体調が悪いときは無理をしない。
- ◎こまめに水分・塩分補給(のどが渴く前に)。
- ◎こまめに休憩をとる(最低でも20~30分に1回、疲れていない)。



## 「幸せ」を作りましょう

「セロトニン」という脳内で情報をやりとりするときに使われる神経伝達物質があります。別名「幸せホルモン」といいます。脳をオーケストラに例えると、セロトニンは指揮者の役割をしています。心のバランスを保ち、精神を安定させてくれます。セロトニンを活性化する方法は、「太陽の光を浴びる」と「15分以上のリズム運動」。梅雨時は天気が悪いことが多い、うっかりしていると太陽の光を浴びながら体を動かす機会が少なくなるので、セロトニン不足になることも。そして、「なんとなく調子が悪い」「無気力」「落ちこみやすい」「イライラする」「怒りっぽくなる」などの症状が見られることがあります。幸せホルモン「セロトニン」が作られるのは午前中。雨の日でも午前中は外に出て、15分くらい歩いてみましょう。おかげで考える必要はなく、みなさんは朝、登校してくるだけでセロトニン（幸せ）を作っています。



**阿部コラム** 「王様と私」というミュージカルを観劇しました。1996年上演の舞台を見ていて、28年ぶりの「王様と私」。ワクワクしながら劇場に向かいました。…あれ? 日本語訳が変わった? オヤ? いつの間に王様と私は友情を育み、お互いをリスペクトするようになったの? 愛する人と引き裂かれ、奴隸となった女性の切なさもいまいち伝わらず。でも、客席は盛り上がっている。この違和感を感じているのは私だけ? 96年の舞台の印象が強すぎたか? 「美しい日本語とは」「時代とともに変わっていく言語を使って気持ちを表現する難しさ」…舞台そっちのけで、言語(日本語)表現について考え始めた阿部。そういうえば最近、仕事関係の本しか読んでなかった。美しい日本語に触れられる本を求めていました。お勧めがあつたら教えてください。